



父が1940年に創業した時計店の2代目です。家電量販店やショッピングセンター、さらに最近はいンターネット通信販売で時計を買う人が増えているので、当店の時計の売り上げは多くありません。一方、長年のなじみ客や評判を聞きつけた時計愛好家たちから修理の依頼が次々と舞い込み、経営の柱となっています。

66年に高校を卒業し、県内でも指折りの時計修理専門家の下で5年ほど修業しました。時計修理技能士の資格も取り、半世紀以上の仕事の携わっています。修理は丁寧な仕事を心が

修理と販売 アナログ貫く

山崎時計店(吉川市)

山崎 満 店主 72



「お客さんに商品を手渡しして、その後の修理もしっかりしたい」と話す山崎さん(吉川市で)

けています。例えば時計の電池交換を依頼されたら、他の機械の部分もきれいにしてお客さんに返します。「山崎さんにやってもらうと電池が長持ちする」といつてまた来てもらえるから、うれしいですね。

また、親の形見のスイス製高級腕時計の調子が悪くなって、「他の店ではもう部品がないと断られた」とか、「部品を作る専門家が直すと高額な修理代を請求される」などと相談に来る

お客さんもあります。そんな時には、親の代から「いざという時に」と保管してある世界中の高級時計の部品がたくさんあるので、「やってみましょう」と引き受けます。お客さんの気持ちを考えると言下に「できません」とは言えません。私の手に負えなければ、腕のいい仲間をお願いして仕上げてもらいます。現在は県時計宝飾眼鏡商業協同組合の理事長として、縮小する業界の立て直

しに知恵を絞っています。かつて県内に数百貨あった組合員の時計店も現在は約70店まで減り、後継者や修理技能士不足に悩んでいます。関東組合の副会長も務めているので、協力して腕のいい技能士を育てる講習会を開いたり、特別な手作り高級腕時計を製作・販売したりなど様々な取り組みを進めています。

時計愛好家からは「限定品やビンテージ品としてコレクター垂涎の的となっている在庫の時計があるから、ネットで売るべきだ」と勧められますが、アナログなやり方にこだわっています。お客さんと話しながら商品を手渡しして、しっかりとその後の修理も面倒を見る、という昔ながらの商売のやり方が好きです。修理する元気がある限り続けるつもりです。(飯村毅)